

令和4年度 切通小学校 テーマ研修について

I 研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した指導法の研究
～小規模校におけるICT機器を活用した授業展開の工夫を通して～

II 研究主題について

1 研究主題設定の理由

平成28年12月に示された中央教育審議会答申では、「予測困難な社会の変化に主体的に関わり、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのか」という目的を自ら考え、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の作り手となる力を身に付けられるようにすることが重要である。」と述べられている。それには、変化し続ける世界では、少子高齢化や情報化、グローバル化といった社会的変化が、人間の予測を超えて進展しているとう背景がある。人口知能（AI）の飛躍的な進歩に見られる絶え間ない技術革新など、社会の構造や雇用環境の急激な変化が予想される。そのような状況の中、よりよい社会や人生の作り手となるためには、子供たち一人一人が、変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合いながら、自らの可能性を発揮できる力を育てることが重要だと考える。

そこで、本校では、昨年度までの2年間にわたり「『主体的・対話的で深い学び』の実現を目指した指導法の研究」を主題に掲げ、主体的に課題解決に向かう子供の育成を目指し、学習指導の充実に取り組んできた。

また、GIGAスクール構想の基一人一台端末が配布されたことで、小規模校の特性を生かしながらICT機器の活用法を研究することで、「主体的・対話的で深い学び」の実現に近づけるのではと考えた。

Ⅲ 研究の仮説

【仮説1】

教師が、子供の実態や教科の特性を踏まえながら、ICTを適切に利用した授業を工夫すれば、子どもたちが自分の考えを主体的に表現し、対話による深い学びを実現することができるのではないか。

- 教科や単元の目標を踏まえた上での対話を生み出すための手立てと工夫
- 目標の明確化と学習意欲を引き出す導入の工夫
- 1単位時間における学習過程の工夫（「ずらし」と「わたり」の工夫、効果的な対話場面の位置付け、チャレンジ15分の取組と、家庭学習との連携）
- 指導内容を考慮した単元における学習指導計画の工夫
- 対話的な学びを実践するための工夫
- タブレット端末の効果的な活用

【仮説2】

授業と関連づけた学習環境の充実を図ることで、子供たちが考えや思いを主体的に表現し、対話による深い学びを実現することができるのではないか。

- アンケートによる実態把握
- 話し方や聞き方等、基本的な対話の姿勢を身に付けさせるための手立て
- ガイド学習の充実（1単位時間の学習活動の見通しをもたせるための手立て、ICTの活用）
- つまづきを解消するための環境づくり
- 教具、ワークシートの活用
- 授業内容を定着させるための家庭学習の充実
- 情報リテラシーや情報モラルを学ばせる
- 児童のICTを活用するための技能の向上